

宮崎県農林水産業における環境負荷低減事業活動促進に関する基本計画の概要

令和5年3月公表

- 耕畜連携の強化による温室効果ガスの排出削減の取組や、宮崎方式ICM※の実施や堆肥の広域流通システムの構築による有機農業等の取組を推進するとともに、PRイベント等を通じた消費者理解の増進や販路拡大を図り、環境と調和した農林水産業の実現を目指す。

※土づくりや適正施肥等を基本に、生物農薬や防除資材等を活用して、適正かつ低コストな防除を行うことで、収量と品質の向上を図る総合的な作物管理

【作成主体】 宮崎県及び県内全26市町村

【計画の主な目標】

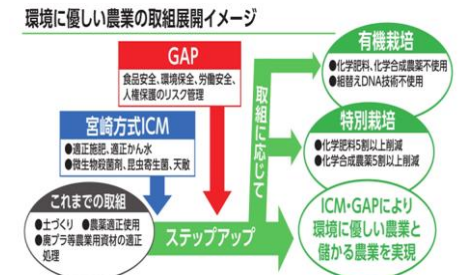
- ・ 有機JAS認証面積（農業）：523ha（R7）
- ・ 畜産バイオマス発電施設数（農業）：7施設（R7）
- ・ 省エネ機器を導入する経営体（水産業）：60件（R7）
- ・ 有機JAS、GAP認証件数（林業）：10件（R7）

【取組のポイント】

- ・ 園芸ハウス栽培における畜産バイオマスエネルギーの活用等により温室効果ガスの排出量を削減
- ・ 宮崎方式ICMの普及や堆肥の高品質化・広域流通システムの構築により、化学肥料や化学農薬の低減、有機農業の取組を推進
- ・ 県の試験場や民間企業等と連携し、サツマイモ基腐病抵抗性品種の普及や土壌病害虫抵抗性ピーマン品種の開発を推進
- ・ 試験販売や学校給食への利用、PRイベント等を通じ、環境負荷低減事業活動により生産された農林水産物の消費者理解の増進や販路の拡大



鶏糞発電施設



環境に優しい農業の展開



イベントでのPR